

第3学年 保健体育科学学習指導案

指導者 大澤祐子（教諭）

小池達弥（学校薬剤師）

1、単元名 健康な生活と病気の予防

オ 「保健・医療機関と医薬品の有効利用」

2、単元目標

- (1) 保健・医療機関や医薬品の有効利用について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとすることができるようにする。
- (2) 保健・医療機関や医薬品の有効利用について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表すことができるようにする。
- (3) 保健・医療機関や医薬品の有効利用について、課題の解決に役立つ基礎的な事項及びそれらと生活の関わりを理解することができるようにする。

3、単元について

多くの中学生は、医薬品をこれまでの日常生活の中で使ったり、薬局や薬店・ドラッグストア等で見たり、テレビや新聞等の宣伝で見たりするなど、何らかの形でその存在を知っていると考えられる。これまでの日常生活における医薬品とのかかわりを生徒が想起し、普段何気なく見たり使ったりしてきた医薬品についてどのようなことを知っているか、どんなときに使っているか、医薬品とは何かについて考えるように働きかけていきたい。そして、医薬品の本質として主作用と副作用があるということを理解させるとともに、医薬品を上手に、正しく選択し、使用していくというセルフマネジメントの考え方にふれ、生涯にわたって実践していく力が身につくことを期待したい。

4、単元の評価規準

	ア、健康・安全への 関心・意欲・態度	イ、健康・安全についての 思考・判断	ウ、健康・安全についての 知識・理解
単 元 の 評 価 規 準	保健・医療機関や医薬品の有効利用について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	保健・医療機関や医薬品の有効利用について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動により、科学的に考え、判断し、それらを表している。	保健・医療機関や医薬品の有効利用について、課題の解決に役立つ基礎的な事項及びそれらと生活の関わりを理解している。
学 習 即 ち 評	① 保健・医療機関や医薬品の有効利用について、健康に関する資料を見たり、自分達の生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 ② 保健・医療機関や医薬品の有効利用について、課題の解決に向	① 保健・医療機関や医薬品の有効利用について、学習したことを自分達の生活や事例などと比較したり、関係を見付けたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。	① 地域には、人々の健康の保健増進や疾病予防の役割を担っている保健所、保健センター、医療機関などがあることについて、言ったり、書きだしたりしている。 ② 健康の保健増進と疾病の予防には、各機関がもつ機能を有効に

<p>価値標準</p>	<p>けての話合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。</p>		<p>利用する必要があることについて、書き出している。 ③ 医薬品には、主作用と副作用があること、使用回数、使用時間、使用量などの使用方法があり、正しく使用する必要があることについて、書き出している。</p>
-------------	---	--	--

※「保健・医療機関の有効利用」については、次の時間の「共に健康に生きる社会」のところで押さえる。

5、研究テーマに関わって

(1) 学習過程での工夫

①視聴覚機器の活用

パワーポイントを用いて、導入、展開、まとめ、それぞれの場面で活用していく。教師主導で話す場面、画像を見せながら説明する場面などメリハリをつけて、授業展開を進めていく。

②ワークシートの工夫

ワークシートは、空欄を埋めていくことによって学習内容が理解できるものと、あらかじめ記入例を例示して、どのように記入してよいか分かるようにしておく。また、ノートとして記述できる部分を入れ、自分の考えを整理したりまとめたりできるようにする。

③グループ学習の工夫

教材（薬の箱）を班ごとに配布し、班の中で調べながら進められようにする。また、自分の考えを発表することができるよう、ワークシートに記入する時間を設定し、自信をもって発表できるようにする。

④「学校薬剤師」との連携

中心となる専門的な内容を学校薬剤師が行い、その後再び教諭が難しかった部分を生徒の日常と結び付けて説明を加える。医薬品について豊富な専門知識を持つ学校薬剤師と生徒の実態を把握している教諭とが役割分担をして行うことで、より効果的な指導となり、実践的な能力を身につけることができると考えている。

⑤医薬品の飲み方に関する実験

水とお茶が入ったグラスに医薬品（鉄剤）を加えて、お茶の成分（タンニン）と医薬品の反応を観察する。水以外で飲むと、胃の中で科学反応をおこして、せっかく飲んだ薬の効果が抑えられてしまったり、変化する可能性があることを理解できるようにする。

6、単元の指導計画「健康な生活と病気の予防」（全17時間）

内容	時間	内容	時間
① 健康の成り立ち	1	⑥ 薬物乱用と健康	2
② 運動と健康	1	⑦ 喫煙・飲酒・薬物乱用のきっかけ	1
③ 食生活と健康	1	⑧ 感染症とその予防	2
④ 休養・睡眠と健康	1	⑨ 性感染症とその予防・エイズ	2
⑤ 生活習慣病とその予防	2	⑩ 医薬品の有効利用	1
⑪ 喫煙と健康	1	⑫ 共に健康に生きる社会	1
⑬ 飲酒と健康	1		

7、生徒の実態

男子18名、女子16名、計34名のクラスである。

Q-Uの結果を見ると、学級内に居場所があり、他の生徒に認められ学校生活を意欲的に送っている生徒が多い(77%)。進路選択に向けて、悩みながらも受験に向けて勉強を頑張ろうという雰囲気は以前より強くなってきた。欠席が少なく、心身ともに元気である。保健体育の授業では、長距離走を終え、球技を実施している。見学をする生徒がほとんどいなく、運動自体好きな生徒が多い。保健学習より体育学習を好む集団である。

保健学習、医薬品の有効利用に関わっては、事前アンケートを実施した。多くの生徒は、健康管理の中で既に薬を活用している。なぜ私達に薬が必要か、どんな種類の薬があるのかなどある程度の知識が備わっている。しかしながら、日常生活を見ると、何気なく、誤った使い方をしている生徒が多い。大人になるにつれ、自らの健康を適切に管理していくことになる生徒たちは、医薬品についての認識を深めておく必要がある。

※事前アンケート結果 (31名実施)

<p>1、<u>身近にある薬の名前や効能</u></p> <ul style="list-style-type: none">・第1位 バファリン (頭痛、痛み止め)・第2位 正露丸 (腹痛、下痢)・第3位 湿布 (捻挫、打撲)ベンザブロック (風邪)ムヒ (虫さされ)	<p>2、<u>薬は、何のためにあるか</u></p> <ul style="list-style-type: none">・病気 (悪いところ) を治すため・痛みを抑える・元気になるため・生きるため・症状を抑える
<p>3、<u>薬を次のように飲んだことがあるか</u></p> <p>(6名) 水なしで、薬だけを飲み込んだ。</p> <p>(22名) 水以外 (例えば、お茶、炭酸飲料、牛乳など) で薬を飲んだ。</p> <p>(1名) 飲み忘れたことに気づいたので、2回分一度に飲んだ。</p> <p>(15名) 飲み忘れたことに気づいたので、慌てて飲んだ。</p> <p>(1名) 効き目が弱い気がしたので、続けて飲んだ。</p> <p>(19名) 医師によって処方された薬だが、治ったので途中で飲むのをやめた。</p> <p>(14名) 前と同じような症状だったので、残っていた薬を飲んだ。</p> <p>(1名) 自分勝手に飲む量や時間を決めて飲んだ。</p> <p>(0名) その他</p>	

8、本時の学習と指導

(1) 日時 平成25年11月27日 (水) 1時30分～2時20分

(2) 場所 山梨市立山梨北中学校 3年4組 教室

(3) 対象 第3学年4組 34名

(4) 単元 健康な生活と病気の予防

オ 「保健・医療機関と医薬品の有効利用」

(5) ねらい 医薬品には、主作用と副作用があり、使用回数、使用時間、使用量など、医薬品ごとに定められた使用方法があり正しく使用する必要があることがわかる。

※「医療機関などの適切な利用」については、次回の「共に健康に生きる社会」のところで押さえる。

(6) 本時の評価規準

医薬品の正しい使い方について理解することができる。

(7) 展開

	学習内容	教師の指導と支援	注意点・資料
導入 5分	1、本時の学習テーマを知る 2、学校薬剤師 小池先生の紹介を聞く。	(T1) 1、 本時の大きなテーマを発表する。 2、学校薬剤師の小池先生の紹介をする。 ・ 学校薬剤師とは何か。 ・ 薬について、専門的なお話をさせていただく。	(T1) 教諭 (T2) 学校薬剤師 視聴覚機器 を使用
展開 前 段 15分	3、 <u>自然治癒力とは何か、 薬とは何かを知る。</u> ○これまでの経験の中で、この ようなとき、どのようにし たか発表する。 ・ 転んですりむいたとき。 ・ 熱が出たとき。 ・ 頭痛 ・ お腹が痛くなったとき。 4、本時のメインテーマを確認 する。 ○薬当てクイズをする。 薬の画像を見て、見た目だけ で薬と判断できるか、考える。	3、指名して、テンポよく発表させる。 ○生徒意見 (薬を使用した)、(何もしなかった、ほっといた) (病院に行った・入院した) ※ (何もしなかった、治療しなかった) という意見を取りあげ、自然治癒力と薬についての説明を進 めていく。 ・ 自然治癒力とは ・ 薬とは何か ・ 薬の歴史 4、何の薬かは、パッケージなどの外装、内装で判断できるが、 薬のみでの判断は難しい。 ○薬と薬に似た画像を提示する。 ・ 薬は、見た目だけでは、何の薬か分からない。 ・ 危険な薬物は見ただけでは何も判断できない。 ・ 「口にすることが何か」無頓着では危険。 ・ 進学し、社会にでれば自らの健康を適切に管理していかな ければならない。だからこそ医薬品について「正しい使い 方」を知る必要がある。 (メインテーマを板書する)	視聴覚機器 を使用
	5、薬の使い方について知る ①薬の外箱にはどんなこと が書かれているかワークシートに 記入する。 ② かれていたことを発表 する。	5、事前に配布しておいた、薬の外箱を机に出させる。 ① ワークシートにはあらかじめ「用法・用量」「注意事項」 を例示しておき、どのように記入するとよいか分かるよ うにしておく。 ・ 薬の外箱には様々な情報が書かれていることに気付かせ る。 ② 何名か指名して発表させることで、薬によって用法が違 うことに気づかせ、なぜ違うのか興味関心を引き出す。	5、薬の外 箱を配布 ワークシート

<p>展 開 後 段 25 分</p>	<p>6、なぜ、薬によって、用法・用量などが決められているのか、学校薬剤師の小池先生から説明を聞く。</p>	<p>6、(T1、T2:学校薬剤師)</p> <p>① 薬の効き目、血中濃度とは何か。</p> <p>② 薬の行方</p> <p>③ 薬を飲むときの注意点</p> <p>④ 実験 (水とお茶それぞれに薬(鉄剤)を入れて、反応を観察する)</p> <p>⑤ 薬の主作用と副作用</p> <p>⑥ 事前アンケートの結果からも、普段何気なく、誤った薬の使い方をしていることを理解させる。</p> <p>⑦ 授業内容を振り返る</p> <p>☆①～⑤について、T1進行のもと、T2に1つ1つ話をさせていただく。</p> <p>特に③、⑤について重点的に話をさせていただく。</p>	<p>6、</p> <p>②人体模型</p> <p>③ 水・お茶 鉄剤、試験管</p>
<p>ま と め 10 分</p>	<p>7、本時の学習を振り返り、わかったことや感想をワークシートにまとめる。</p> <p>書いたことを発表する。</p>	<p>7、数名指名して価値づける中で、次のことをおさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬は、正しく使うことで、体の自然治癒力を助け病気やけがを早く治す助けになるが、自分勝手な使い方を続けていると思いがけない副作用に見舞われることもある。 ・用法、用量・服薬時間等をきちんと守るように心がけることと、必要以外の薬は出来るだけ飲まないようにすることが大切。 	<p>7、ワークシート</p>

保健学習 お薬講座ワークシート

3年4組 氏名 ()

☆授業のテーマ「薬～ _____ ～」

1、薬の使い方しらべ

① 【効能】 なんのお薬？

② 【用法・用量】 年齢は？ いつ飲むの？ 何回のむの？ のみ方は？

③ 【注意すること】 服用してはいけない人は？ その他？

2、授業内容の復習

① 薬とは、() という法律で医薬品として定められている。

② 病気やけがを自分で乗り切るために、本来人間がもっている力のこと。()

③ 薬の効き目は、() で決まります。

④ 薬を使用する本来の目的である、病気を治したり軽くしたりする働きのこと。()

⑤ 薬本来の目的以外の好ましくない働きのこと。()

3、授業を振り返って、(分かったこと、感想などを書きましょう)
